

(1)

小田高同窓会 会報『八幡山』第25号

平成25年12月10日



創立明治33年(1900)
開校明治34年(1901)
神奈川県第二中学校



第25号

神奈川県立小田原高等学校
同 窓 会

発行者 会 長 小野 康夫
編集者 広 報 委 員 会
委員長 畠山 康

住所 〒250-0045
小田原市城山3-26-1
電話・FAX 0465-20-3281
メールアドレス
kenyukai@odako.org



平成26年度ホームカミングデー・総会

期日: 26年5月18日(日) 会場: 小田原高校

ホームカミングデー: 各校内施設

同期会やクラス会、部OB会などの同時開催を歓迎します。

同窓会総会: 視聴覚教室



※上記は現在計画中です。確定次第ウェブサイトでお知らせします。





受付風景



企画展

◆校史展示室
本年の目玉は企画展「未公開写真が語る小田原の関東大震災」（内容別掲）。小田中生が撮影した震災直後の校舎被害状況写真などを中心に展示。昨年の177名を上回る208名が来場。

◆木俊匡（高34）・菱木俊匡（高34）両氏が交代で待機。
窓生の医師・辻内和人（高32）、窓生の医師・辻内和人（高32）、菱木俊匡（高34）両氏が交代で待機。



校歌斉唱

◆開会式
総合司会を常盤勝美氏（高43）が担当。唐崎知子副会長（高19）のピアノ伴奏で母校の校歌を齊唱。吳地滋美副委員長（高22）の挨拶で開幕。



窓梅会資料室

湯川（左）阿久津（右）
両講師

◆八幡山トーカ
郷土史を研究する湯川悦夫氏（高19）が様々なデータを基に「関東大震災の教訓」を提示。続いて小田原市防災対策課主査阿久津芳生



同窓会総会

25年5月19日（日）、約600名のご参加をいただき、「関東大震災90年」を主テーマにした校史展示室と講演会の連携企画や初の運動部催事もあり、大盛況でした。

活況、「同窓生の小田高祭」総会・ホームカミングデー

◆エントランスホール

例年ご協力いただいている湯河原地区小田高会他のスタッフに加え、

今年は高15同期会が担当同期会として来場者カード記入、当日プログラムやアンケート手渡しなど受付業務を担当。会計受付では同窓会費、「がんばれ小田高応援基金」を受付。物販コーナーでは同窓会発行の「記念史」に加え、資料委員会が制作した

「思い出の写真葉書」及び新刊の「同窓会会員名簿」を販売。救護所に同窓生の医師・辻内和人（高32）、菱

◆慈梅会資料室
本年も旧小田原城内高校同窓会・慈梅会が9時から16時まで資料室を公開。

◆同窓会総会

司会進行は津田憲一郎副会長（高20）。小野康夫会長（高13）の挨拶に続き母校の荒木高司校長ご挨拶。

鈴木紀雄氏（高19）議長で議事。常任幹事会付託事項報告のほか、役員選出協議があり、会計監査・藤波康孝氏（高20）が山本妙子氏（高27）に交代した。

◆八幡山コラム
西由起子氏（高34）のソプラノリサイタル。アンコールの「踊りあか



新弓道場へ

◆キヤンパスツアーニューアーチも落成。今年も多数ご参加ください。



柳屋三三師匠の熱演

氏（高45）が「地震だ！その時どうする？」を講演した。質疑応答も活発で参加者の期待に十分応える内容だった。

◆八幡山寄席
柳家三三師匠（高45）が「看板のピン」、「真田小僧」を熱演。



サッカー部OBと現役の交流試合

◆グループ参集企画
サッカー部OB会が試合と総会を実施。ホームカミングデー初のスポーツ催事だ。

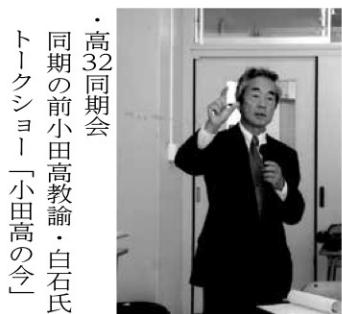


熱唱する西由起子さん

そうまで熱唱。



トークする白石氏



・高32同期会
同期の前小田高教諭・白石氏ミニトークショウ「小田高の今」

◆教室内催事
講演会「日本のサケ」講師・遠藤紀忠氏（高11）



ティーパーティー

◆ティーパーティー
スカイラウンジで紅茶とクッキーで歓談。



母校にエール

◆閉会式
実行委員長蛭田（高15）が御礼の一言。続いて応援団OB中山和也氏（高11）のリードで応援歌「冠たる伝統」「コチャエ節」と「校歌」を齊唱。母校にエールを送り16時に閉会した。

◆次回は6の期が担当
平成26年度は卒業期一桁が6の期に応分の役割を担っていた下それぞれ節目の年。記念すべき年にふさわしい内容も盛り込みながらホームカミングデーの充実を目指したいと思います。

ホームカミングデー特別委員長 蝶田克美（高15）

・高41同期会
元年城内高卒業生との交流会
その他グルーピー参加
・高15同期会
・高7同期会
・高15同期会

新弓道場完成

「樺誠館」と命名

弓道部OB会 会長 國分 尚（高16）

25年3月、待望の新弓道場が新校舎の東南の角、仮設運動部部室跡地に完成、小田高弓道部の新しい道場での活動が始まりました。新校舎建設が終わり、旧校舎が解体されて行く中、敷地の隅に取り残されてしまい、グラウンド造成中は直接弓道場に向かう事が出来なく大きく迂回して行かなければならぬ辛い時期もあり、待ちに待った新道場の完成です。

大正15年頃には屋根付き練習場が出来ましたが部員数も少なく活動も停滞していた様です。

昭和3年になり新しく弓道場が開場同時に部名も「弓道部」と改められました。

昭和6年頃には県下他校との競射が出来るまで復活特に中学28回の丹羽正典氏は正に弓道の天才で、演技（射技）は、弓道の本多琉宗家等、多くの弓道関係者から高く評価されましたと伝えられています。



完成した新弓道場

弓道部 弓道場の移り変わり

小田高弓道部の設立は大正3年6月、八幡山の新校舎に移った時期で、練習場確保が始まつた時期が「弓術部」の始まりと思われます。この頃の道場は塹（あわら）があるだけで、射場は屋根も無く、道場とは言えない練習場であったようです。

それでも、大正9年頃には最盛期を迎え、対抗試合での強さを發揮、弓道場はその資材置き場となり閉鎖

され、昭和6年頃には県下他校との競射が出来るまで復活特に中学28回の丹羽正典氏は正に弓道の天才で、演技（射技）は、弓道の本多琉宗家等、多くの弓道関係者から高く評価されましたと伝えられています。

その後は第二次世界大戦等の影響で十年以上の空白の時代が続きました。昭和29年になり弓道部が復活し、同年10月には新しく同じ場所に道場も完成し部活動が再開しました。昭和36年頃には関東大会出場を果たし、戦後の活躍期を形成した。私が小田高弓道部に所属、練習を始めたのはこの時期でした。数々の諸先輩の県大会・関東大会・30M遠的等での活躍を目撃し、その勢いに負けない様にと練習に励みました。



旧弓道場とお別れ
旧弓道場は新弓道場完成後直ぐ解体される事がわかった。（跡地は小田高を周回する道路となり、お休み場所として公園になる。）

昭和36年、当時の道場は以前と同じ場所に在り、築年は古くはないが見えた目は大変古い感じの道場でした。

弓道部の実力が注目され、後輩支援を目的に平成2年小田高弓道部OB会が結成されました。各年度で細々と活動してきたOB会が一つに集結、木校長に「樺誠館」を提案しました。

提案の趣旨

常に真面目さが大切でありその真面目さの中には「率直な態度」「質実剛健の気風」「自主独立の精神」があ

ざれてしまいました。弓道部は練習の場を二宮神社境内にあった弓道場（結婚式場）に仮住い練習を続けました。一般的の道場で多くの有段者の先輩に混じての練習が、小田高弓道部の実力向上や、弓道に望む姿勢や精神を育てて頂きました。

昭和37年6月に東館が完成、夏休みを返上して弓道場をリニューアルし、小田高弓道場での練習を再開しました。この年8月に大分県別府で開催された「全国高等学校弓道大会」に神奈川県代表として勝ち残り國分・瀬戸・高橋・椎名の4名が参加しました。残念ながら1本差で決勝には進めませんでしたが、良い思い出がござりました。その後、今にも崩壊しそうな弓道場は更に十数年弓道部の練習を支えてくれてきました。

昭和50年3月旧弓道場完成
昭和30年代後半からの十年は、県大会上位入賞や関東大会出場等の成績は継続できていいたが更に上には至らなかつた。そんな中でも部員が増え実力も付いてきた女子では昭和55年に神奈川県代表の国体選手を送り出しました。

昭和59年に設立された、小田高「運動部OB会連絡会」では多くの弓道部員が表彰されました。

その結果、提案は承認され新道場完成に間に合わせるべく活動を開始した。建物の名は弓道部OB会だけではなく現役の生徒・顧問・関連する教師の方々の意見をOB会が取り纏め3月11日OB会・弓道部顧問の連名で荒木校長に「樺誠館」を提案しました。

（樺）小田高の校章で小田高の象徴「誠」校訓「至誠無息」より一字を拝領、

昭和50年より38年間部員を見守ってくれた「道場にお別れ」をしようとした多くのOBの声が寄せられた。そこで、23年11月24日、母校及び旧弓道場にて「お別れ会」を開催した。

関西・関東の地域から60名を超えるOB会員と現弓道部顧問・現役の部員30名が一堂に会するお別れ会になりました。顧問の説明による新校舎の見学、3階から新弓道場の建築現場の状況確認、旧弓道場では在校生部員との交流を兼ね、射会を行い、OBも弓道具を持参し高校時代の思い出に浸りながら楽しい一時をすごしました。ここでOB会から会員に2つの提案をしました。

全国の1300箇所の弓道場の調査、OB会案も添え参考資料として出席者の意見や提案を依頼しました。

②新弓道場にOB会として、^{あずち}塚と入り口の看板を寄贈する。

その結果、提案は承認され新道場完成に間に合わせるべく活動を開始した。建物の名は弓道部OB会だけではなく現役の生徒・顧問・関連する教

師の方々の意見をOB会が取り纏め3月11日OB会・弓道部顧問の連名で荒木校長に「樺誠館」を提案しました。

ります。初代吉田庫三校長が植えつけた質実剛健の気風を引き継ぎ、誠実に文武両道を貫く小田高生を、弓道を通して形成してゆく道場との思いをこめました。

荒木校長に理解を頂き、新弓道場は「櫻誠館」と命名されました。



紫の布地に校章を白で染めぬいた掲幕

出来上がり、入り口の横断看板もOB会幹事堤氏夫人の書「櫻誠館弓道場」を基に、田代信行氏（高16）のご好意で安価で提供された樹齢140年の、楠の大きな板に写され立派に完成し、無事新弓道場への設置も終わり、道場もそれなりに風格を増しました。

現役部員の練習も一層活発に行われて30年以上待ち焦がれていた、新弓道場は設備面、安全対策面でも旧弓道場とは比較にならないほど立派

になりました。

出来上がってみれば欲がつのり、欠点も見えてきます。それは使いながら補つてゆく事で、新弓道場がより成熟し県西に誇れる弓道場になる信じています。弓道部OB会は継続してその活動をサポートして行きます。今年の8月11日にOB会総会を開催約30名が小田高に集結、新道場の見学やOB会の今後に関し議論を交わし、会の充実と異なる発展を確認し、会場を移した懇親会では、異なる弓道部OB会員の「絆の強化」を確信し、次回での再会を誓いました。



弓道部OB会寄贈

新弓道場「櫻誠館」の完成に寄せて

弓道部顧問 和泉吉昭

小田原市街と相模灘を俯瞰する八幡山の南、戦国時代の土壘の面影が偲ばれます。その丘に、密やかにあつた旧弓道場で、その青春の思いを掲げた道の深淵に襟を正さずにはいられません。

新弓道場の建設計画は、当初旧弓道場地に予定された部室等の2階とされていましたが、校舎ホールルーム棟のプレハブ仮部室棟を撤去しまだまことに歓声が沸き起りました。それを半年たた今も昨日のごとくに思っていました。校舎と同系色の白壁に黒色屋根は城郭建築を想わせ、射場の扉を全開したときの開放感は異空間そのもの。人工芝と防矢ネットの間に特に圧巻。掲幕の土の厚みの重厚さが特に印象的です。各的に照射されるLED球の光。そして、弓道部OB会から寄贈いただきました樹齢140年といわれる楠の「櫻誠館」と揮毫された看板と桜の葉

な道場になりました。

出来上がってみれば欲がつのり、欠点も見えてきます。それは使いながら補つてゆく事で、新弓道場がより成熟し県西に誇れる弓道場になる信じています。弓道部OB会は継続してその活動をサポートして行きます。今年の8月11日にOB会総会を開催約30名が小田高に集結、新道場の見学やOB会の今後に関し議論を交わし、会の充実と異なる発展を確認し、会場を移した懇親会では、異なる弓道部OB会員の「絆の強化」を確信し、次回での再会を誓いました。

が白く抜かれた紫の掲幕の風格。いずれにいたしましても、多くの方々の期待に応える武道教育が豊かになりますよ。と胸を張っていたのがまさに実現した画期的な出来事です。高校の部活は、監督といわれる先生の指導法の影響が大きいといわれますが、その一端を示してくれました。転機となるニュースがありましたが、夏の高校野球大会に向けて、毎年、各新聞社は選手の名前等を紹介しています。某新聞の記事の中で、小田原高校は平成16年の小田原城内高校との統合以来、小田高創立平成16年、野球部創部も平成16年ということです。同窓生をはじめ関係者から強い不満がありました。この内容が、今年は荒木校長の強い決意もあって、創立平成16年、創部明治35年と表記され、「ここに注目」の欄の中で、「小田原城内高との統合前を含めると、部の歴史は110年を超える。」と明記され、野球部の連綿と続く伝統が正確に記述されました。

この記事の表記に関しては、掲載のたびに話題となりましたが、今回、荒木校長の決断のもと、一部とはいえ大きな転換が図られました。学校

対足柄高校戦で勝利の喜びを分かち合う
(瀧口昌次さん(高5):撮影)

な実りを結ぶよう、この「櫻誠館」を活用させていただけることに心から感謝を申し上げます。

(25年7月)

の後遺跡調査などさまざまの検討がなされて、24年の夏、8月13日の着工となり、完工は25年2月5日でした。工事に携わられた方々の温情深く、随所に新弓道場への熱い思いが感じられます。新道場へは3月1日引っ越しました。旧道場の掲幕

が白く抜かれた紫の掲幕の風格。いずれにいたしましても、多くの方々の期待に応える武道教育が豊かになりますよ。と胸を張っていたのがまさに実現した画期的な出来事です。高校の部活は、監督といわれる先生の指導法の影響が大きいといわれますが、その一端を示してくれました。転機となるニュースがありましたが、夏の高校野球大会に向けて、毎年、各新聞社は選手の名前等を紹介しています。某新聞の記事の中で、小田原高校は平成16年の小田原城内高校との統合以来、小田高創立平成16年、野球部創部も平成16年ということです。同窓生をはじめ関係者から強い不満がありました。この内容が、今年は荒木校長の強い決意もあって、創立平成16年、創部明治35年と表記され、「ここに注目」の欄の中で、「小田原城内高との統合前を含めると、部の歴史は110年を超える。」と明記され、野球部の連綿と続く伝統が正確に記述されました。

この記事の表記に関しては、掲載のたびに話題となりましたが、今回、荒木校長の決断のもと、一部とはいえ大きな転換が図られました。学校



熱心に聞き入る参加者

第4回 自然環境フォーラム

「小田高OB達の観察活動から」

小田高生物部OB会（牧林功会長（高4））が主催する第4回「自然環境フォーラム」（小田高OBたちの観察活動からの報告）は、小田高同窓会との共同主催で、25年6月23日（日）、小田高・集成館ホール（視聴覚教室）で開かれた。小野康夫同窓会長や大類正久元教諭（故人）、生物部顧問（夫人）らが傍聴した。参加した一般市民は約120人。報告ではOBと一緒に、現役の小田高3年、松岡里咲さんも登壇。パワーポイントを使い、南足柄でのチョウの観察記録を楽しそうに紹介した。

量の減少が著しい国は、農業王国オランダ。次いで日本という話には日本が高い技術での農業への取り組みが判り、聞いていて胸を張る思いだつた。



元横浜国立大学副学長
井上誠一さん(高14)は農薬のお話

の、良き指導者がいたのもよかつた
松岡さんは快活に報告する。

鉤爪かぎづめがマジックテープのような役やくをして、引っ掛けるからだ。』
幾つかの観察報告のあと、松岡と

んはこう締めくくった。「自然觀察会に参加して、生まれ育った南足柄が益々好きになつた」

同窓生の活躍が

25年2月22日から11回にわたり、活躍する小田高司窓生の群像が朝日新聞に連載さ

チョウの観察報告は在校生（3年）
の松岡里咲さん

④ 「昆虫類の生息環境 伊豆半島の取り組み」＝篠島正彰さん（高1）

③トンボ類の生息環境の保全④休耕田の利活用。休耕田ではマコモダラ成分の有効性調査を行い、成果を上げた状況が報告された。

いよいよ小田高生の登場

クロアゲハなどの幼虫が蛹になろ
時の前兆は、水様便のウンチだ。これ
をすると、何かに突き動かされ
よう歩き始める。モンシロチョウは、水
様便はないが、蛹になる場所を求めて動き回る。
アオスジアゲハは水様便や歩き回
りもせずに、食草の裏葉に葉の擬能

となつて、蝶になつた。アカタテハは糸玉作りの最中に、普段通りのウンチをして食草の中で蝶になつた。

④「昆虫類の生息環境 伊豆半島の取り組み」＝篠島正彰さん（高11）
篠島さんは、旧姓を竹原と言つた
環境省の環境カウンセラーだが、
つての国鉄（現JR）伊東駅長サン
もある。国鉄幹部の仕事から解放
されて、いま伊豆半島の環境保全によ
り組んでいる、と自己紹介があつた
篠島さんは、伊豆半島を伊東か
狩野川放水路以北のラインを「北部
それに「中央部」、河津川ライン以
き「南部」の3地域にて、更にそ

田の利活用。休耕田ではマコモダラ等の有効性調査を行い、成果を上げた状況が報告された。

篠嶋さんが次いで説明したのがチヨウ、トンボなどの観察記録だ。チヨウでは、伊豆半島に最近侵入してきたサツマシジミなどを加えると98種が記録され、トンボは61種が確認された。これらの中には伊豆半島に定着した種と絶滅種が、会場のスクリーンに投影された。

興味深い話題として、篠嶋さんは水質指標生物に指定されたムカシソウ

『くだかけ会』の南足柄の観察会に参加してから、生物への興味がわいた。最初は2007年（平成19年）のモノシロチョウのサナギ（蛹）探しから始まって、野外観察の楽しさを知つたという。

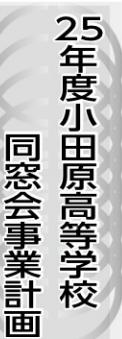
蜘蛛はなる場所を決めるときも、体を横に位置に念入りに糸を吐く。その後は帶蛹と垂蛹とで、体を固定する仕方は違っている。帶蛹になるチョウは、体の向きを逆さまにして、吐き出された糸から糸を出し、顎を打ち付けることで、うにして三角錐のような台座を作る

豊かな植生と水資源に恵まれた豆半島。そのなかで、篠嶋さんが地域の人たちと一緒に進めたのが、

「お知らせ」この記事は、小田高生部OB会HP「しるだも」でも、写真はきで紹介しています。



11	10	9	8	7	6	5	4
初代校長は松陰の甥／多忙な同窓会長 10と11の間に小田原城内高校として 『校歌』に「梅の花」／良妻賢母ブランド	教壇で英語／エンタメ才能続々 演劇へ導いた文化祭／舞台人育てる 時代先取るセンス／海外に羽ばたく ソフトテニス全国制覇／サッカー準V	引 「至誠」「堅忍」脈々と／経済界をけん 地元に積極貢献／バレーや卓球で好成績					



(1) 母校の助けを必要としない運営の自立化を目指し、電話を独立させて会員の窓口（当面は週1日）を設置するなど事務局体制の整備を図る。
 (2) 引き続き、各種役員に多くの女性が参画するよう努めいく。

(1) 3. その他
 (2) 活性化を図つてていく。
 (3) 同窓会の目的の一つである会員相互の親睦を図るために事業を着実に推進する。

3. その他
 (1) 各委員会の活動
 総務、交流、資料、校歌祭特別の各委員会の事業計画については割ります。詳細についてはウェブサイトをご覧ください。

(1) 会員に現状を理解してもらえるよう、活動内容をウェブサイト等で伝達し、会費納入の促進を図る。
 (2) 母校に面倒をかけない同窓会の運営を目指して、事務局体制を整備する。

(1) 会費収入が年々減少していることから、会員への呼びかけを強化し、併せて事業の見直しを進めていくこととして、25年度は次の目標を掲げて

同財窓務会状の況

資産の状況

(自 平成24.4.1)
(至 平成25.3.31)

(単位：円)

1 基本金		22,886,776
(1) 中央三井信託銀行(ヒット)	5,946,120	
(2) 横浜銀行(積立定期預金)	11,518,171	
(3) さがみ信用金庫(普通預金)	5,422,485	
2 記念事業積立金		1,239,312
(1) 横浜銀行(積立定期預金)	1,239,312	
3 名簿会計積立金		87,758
(1) さがみ信用金庫(普通預金)	87,858	
4 一般会計保管金		5,174,220
(1) 横浜銀行(入会金・年会費等)	3,838,971	
(2) ゆうちょ銀行(年会費等)	1,250,786	
(3) 小口現金	84,463	
資産計		29,388,066

*総会で報告された予算・決算をお知らせいたします。

※詳細はウェブサイトをご覧ください。

平成25年度予算		(自 平成25.4.1) (至 平成26.3.31)	平成24年度決算		(自 平成24.4.1) (至 平成25.3.31)
[収入の部]	本年度予算額	前年度予算額	[収入の部]	予算額	実績額
入会会費	1,610,000	1,615,000	入会会費	1,615,000	1,610,000
年寄会付金	5,313,000	6,300,000	年寄会付金	6,300,000	5,604,000
繰越金	589,000	800,000	繰越金	800,000	636,770
雜収入	599,585	282,199	雜収入	282,199	282,199
合計	8,283,000	9,200,000	合計	9,200,000	8,362,917
[支出の部]	本年度予算額	前年度予算額	[支出の部]	予算額	実績額
事務費	3,943,000	3,900,000	事務費	3,900,000	3,536,498
事務局費	478,000	350,000	事務局費	350,000	180,000
事務局会議費	250,000	300,000	事務局会議費	300,000	249,658
常任幹事会費	110,000	150,000	常任幹事会費	150,000	108,295
校内幹事会費	100,000	100,000	校内幹事会費	100,000	75,000
会員連絡費	2,600,000	2,500,000	会員連絡費	2,500,000	2,564,691
涉外費	80,000	150,000	涉外費	150,000	46,080
消耗品費	100,000	100,000	消耗品費	100,000	88,974
雜費	225,000	250,000	雜費	250,000	223,800
事業費	3,560,000	4,050,000	事業費	4,050,000	3,508,079
OHCD・総会費	550,000	650,000	OHCD・総会費	650,000	514,753
入会記念品費	510,000	450,000	入会記念品費	450,000	397,740
総務委員会費	40,000	50,000	総務委員会費	50,000	1,020
交流委員会費	60,000	50,000	交流委員会費	50,000	41,015
広報委員会費	40,000	50,000	広報委員会費	50,000	30,020
資料委員会費	50,000	50,000	資料委員会費	50,000	51,334
校歌祭費	550,000	550,000	校歌祭費	550,000	553,010
会報発行費	1,100,000	1,200,000	会報発行費	1,200,000	1,030,650
広報費	110,000	150,000	広報費	150,000	104,400
地域職域同窓会費	200,000	200,000	地域職域同窓会費	200,000	185,000
同期会結成補助費	150,000	150,000	同期会結成補助費	150,000	100,000
校史展示室費	200,000	500,000	校史展示室費	500,000	499,137
教育費	380,000	500,000	教育費	500,000	290,000
積立金	100,000	300,000	積立金	300,000	300,000
予備費	300,000	450,000	予備費	450,000	128,755
合計	8,283,000	9,200,000	合計	9,200,000	7,763,332

地域・職域同窓会の動き

富士フィルム桜友会

富士フィルム桜友会は、今年会報「桜友」20号を発行した。

昭和29年に発行し、途中中断したが、12年に復刊し以後毎年発行している。この会報は会員の活動状況や近況報告を掲載し、遠方の会員との連絡・親睦にも役立てている。いまでは会の維持・発展に欠かせない存在になっている。

現在活発に実施されている親睦活動としては、同好会活動があり、ショットクラブ（写真撮影）、料理教室、パソコン教室、俳句の会等がある。同好会への入会にはあまり制約を設けず、会員の家族、友人も参加出来ることにし、和やかな会が1回／月いろいろ趣向を凝らして行われている。また、1回／年 ウォーキングとゴルフコンペを行いしさやかながら、健康づくりにも配慮している。24年度は紅葉のシーズンに根府川から早川と、源平合戦ゆかりの里を訪ね、西湘路を歩き、帰りに会食を行った。又、第14回のゴルフコンペもこの時期に富士ヘルスカントリーで開催した。

本年度の総会は4月に富士フィルム神奈川工場で開催した。通常の議案審議終了後、執行役員神奈川工場長から会社の経営状況、新製品の開

発状況、将来の展望等についてお話をして頂いた。デジカメの急速な普及で衰退した銀塩フィルムにとって替わる新事業が着実に進展しつつあると聞き、大変心強く感じた。その後会場を移して懇親会を行い、小田原高等学校鈴木教頭（高26）、同窓会小野会長（高13）から関係分野の状況や動向も含めご挨拶を頂いた。終始和やかな雰囲気のなかで懇親会は進められ、校歌を齊唱して来年の再開を誓い合った。

事務局長 加藤寛徹（高11）
世話人 奥津 裕（高2）
世話人 藤田和雄

第21回八幡山を語る会 (旧天利先生を偲ぶ会)

毎年、秋の名月を愛する日を選んで行われてきた会も、24年10月28日会員19名中8名の参加で、例年のようになに「いろは」で開催され「天利先生を聞く会」の伝統をうけついで、お互いの近況報告、生き方の情報交換、大磯で有名な人格者の英語の小清水賢先生、山北で奥様孝行の坂本規一先生（高21）、JAかながわ西湘のアグリさんとして農協新聞のトップ記事を飾った数学の小嶋勲先生（高3）、謡曲の先生である理科地学の加藤克義先生、博学・博識の生物の原田郁生先生、老人施設の大

経営者である社会科の藤田和雄先生、県農協連合会の表彰をうけた社会科の奥津裕（高2）。本人と大いに人生を語り合い盛り上った。残念なのは逝去の由、まことに残念であった。

また、その後、25年1月に英語でサッカーの両毛明良先生のご葬儀に参列、叙勲を受けられた遺影に合掌、その折、国語で軟式テニスの小泉重義先生（中37）、数学で尺八さんこと高橋浩先生にお会い出来たことは望外の喜びでした。皆さんの何時迄もお元気な姿に接することが出来て日々これ感謝。



平成24年10月28日 「いろは」にて

湯河原地区小田高会

湯河原地区小田高会（会長 隆哉（高9））は、少しでも地元の役に立つ会を目指し、年間の事業の

中に、7月の湯河原海岸の海開きの前に海岸清掃を、9月に幕山公園の夫婦桜の下草刈りを行っています。毎回20人程度集まり、作業に汗を流し、その後反省会とバーベキューで懇親を深めています。

また、本校の事業にも積極的に協力しています。かながわ青春校歌祭には、毎年3名以上参加しています。ホームカミングデー（同窓会総会）では、受付は湯河原で、本部から指名される程です。

この他、総会、新年会、年3回のボーリング大会等を行い、会員相互で協力しあいながら、地元貢献の出来る会として息の長い活動をしていきたいと思っています。

願わくば、会員が増えれば、活動をもっと広げることが出来るのではと思っていますので、地元にお住まいのOBの方々のさらなる参加をお待ちしています。

小澤 稔（高16）

小田原市役所桜和会では、5月24日（金）に「ホテルおかだ」を会場に25年度総会を開催しました。

本会は、現在約300名の会員を擁し、毎年開催する総会は、宿泊と市内日帰りで交互に実施しており、今年は宿泊開催ということで120名余の参加がありました。

総会後は懇親会では、顧問である加藤憲一市長（高35）、来賓としてお

招きした小野康夫同窓会長（高13）、荒木高司小田原高校校長、県庁小田原会剣持栄様（高29）に御挨拶をいたぎ、会員同士の懇親を深めました。懇親会のメインイベントである大抽選会では、地域活性の一助を目的に、小田原の地場産品、名産品を景品として多く選出し大いに盛り上がりました。

また、最後には参加者全員で輪になって肩を組み、校歌を熱唱しました。本会は、毎年新会員が加入し、本年度は11名の新人が加入しました。総会では例年若手職員からベテラン職員まで100名を超える参加を得ており、世代を超えて職員が一つになることで、地方分権の荒波とともに突き進んでいくことだと思います。

来年は、本会創設50周年の記念の年でもあります。半世紀を祝うにふさわしい企画で、より一層の交流と、自ら考えて行動する職員として市民の皆様に信頼される市政運営に尽力してまいります。

来年は、本会創設50周年の記念の年でもあります。半世紀を祝うにふさわしい企画で、より一層の交流と、自ら考えて行動する職員として市民の皆様に信頼される市政運営に尽力してまいります。

税理士桜友会

監事 飯田英次（高50）

税理士桜友会は、小田原中学・小田原高校卒業の税理士により構成されている職域同窓会のひとつです。現在会員数は43名（今年は2名の新会員が入会いたしました）、税理士会の所属支部は横浜中央、鎌倉、藤沢、厚木、小田原と神奈川県内ほ

ば全域に広がっています。また、年代も高校2回（昭和25年）卒業から44回（平成4年）卒業まで、こちらも幅広い年代に広がっています。

その税理士樺友会第20回定期総会は、**小野康夫同窓会長（高13）**、**鈴木秀幸教頭先生（高26）**をお招きし、25年5月31日（金）18時より宮小路中華料理「いろは」に於いて、20名参加のもと開催されました。

総会は事業報告・会計報告・監査報告と無事承認可決され、また、今回の総会は役員改選の時期にあたっていましたが、**小松雄成会長（高14）**以下役員全員留任が決まり、会長以下役員全員持ち新たに2年間の任命に当たる所存であります。また、20回目の総会に当たり、「がんばれ！小田高」応援基金へ、いつもよりほんのちょっと多めの寄付がなされることが承認されました。

その後、懇親会となり、**小野康夫同窓会長、鈴木秀幸教頭先生**からご挨拶をいただき、学校の現況や、卒業生の進路状況等などお話しいただき、楽しい懇親会となりました。

懇親会最後は恒例の校歌斉唱と応援歌（冠たる伝統、天が下する、逍遙歌、コチャ工節）を合唱し無事終了いたしました。これから第30回、第40回と永く続く楽しい会になるよう、役員一同、会員一同、考えておられます。

総務 横島正雄（高28）

県庁小田高会

県庁小田高会は、事務職、技術職、教職、警察職など様々な職種の方がおり、現在、会員数は約300名です。

会の主たる行事は、毎年夏の総会で開催しました。

総会では、来賓としてお招きした

小野康夫同窓会長（高13）、**荒木高司**、**小田原市役所樺和会関野憲司会長（高28）**のほか、会の顧問の県議会議員、県を退職された諸先輩方及び現役会員をあわせ、約60名の参加者を得て、懇親を深めました。

第23回小田中・小田高会

県庁小田高会には、年齢も幅広く、様々な職種の会員がいます。総会は会員相互の貴重な情報交換や交流の場ですから積極的に参加を呼びかけ、県庁小田高会をさらに活性化させよう努めています。

幹事長 剣持 栄（高29）

事務局・蛭田克美（高15）

お城をつくる会理事（高23）の話題提供の後、全員が10グループで懇親。応援団OB会中山和也（高11）、志村明男（高20）、山崎勉（高27）3氏の指導で応援歌・校歌を音唱し閉会。

次回は26年6月4日に開催。

横浜銀行

小田中・小田高会

当会は、横浜銀行（出向者を含む）行員と、そのOBからなる職域同窓会

で、会員数は90名程度です。今年度も、9月21日から1泊2日

の日程で、箱根湯本「ホテルおかだ」で年次総会を開催いたしました。当

日の参加者は約40名程度で、今年も2名の新入会員を迎えました。

総会の冒頭、市川公雄会長（高22）から、この総会は「現役とOBが小田中・小田高および横浜銀行という、時代を超えて共通の文化を分かち合える絶好の機会」であり、「1年に1度、老いも若きも一同に集合する貴重な交流の場である」と、熱意を持つての同窓会の開催の意義についての挨拶に続き、「昨年、関連会社の社長に就任し、次年度から本会の新会長に就任する、**下山秀弥会員（高27）**による乾杯により、総会を開会いたしました。

南足柄樺友会は、一昨年度の第21回総会の開催に続き、25年10月26日に第22回総会を45名の出席で開催しました。

幹事相談役 植野公夫（高28）

南足柄樺友会

第22回総会

最後にこれまで高校時代応援団長の経歴を持つ、ベテラン山本博文員（高36）にかわり、成瀬貴明会員（高52）によるエールのもと、参加者全員で円陣を組んでの校歌斉唱を行ない、一同来年の再開を約束し、総会は盛況裏に閉会いたしました。

会場全体がなごやかで明るい雰囲気で包まれ、先輩後輩そして老若男女が、時代を超えて交流の輪をひろげ、話題が沸騰し、会員相互の「絆」を深め、参加者各人が満足のいく素晴らしい総会を開催することができました。

会場全体がなごやかで明るい雰囲気で包まれ、先輩後輩そして老若男女が、時代を超えて交流の輪をひろげ、話題が沸騰し、会員相互の「絆」を深め、参加者各人が満足のいく素晴らしい総会を開催することができます。



山崎会長と3幹事挨拶

からは、最近の県政の状況について報告をいただき、県西地域における県の新たな施策の話もありました。会の最後は、恒例の校歌斉唱の話もありました。

会の最後は、恒例となつた顧問のリードにより、参加者全員で肩を組み、校歌、応援歌を齊唱し、大変な盛り上がりの中で、お開きとなりました。

総会が進むにつれて、本会の元会長で高校時代登山部に所属した経験をもつ、**出縄茂会員（高2）**から、自身の実家のある平塚から苦労して

母校まで登校し、時には、酒匂川の橋のない場所で、直接川を渡つて通学したエピソードなど、諸先輩より往時の思い出話を語っていただきました。

第1部は南足柄市女性センターで、講演会「日本外交に携わって」を国際交流基金理事長の安藤裕康氏（高15）にお願いしました。この講演は昨年5月20日開催の小田高ホームカミングデーで好評を博しました。今回はまた違った観点から、日本外交の現状や目指すべき高品質国家など



浴衣姿で記念写真

幹事長 奥津 裕

の長や会社顧問、米作りや野菜づくりに精を出している者等、生き甲斐をもって社会に恩返している様子や生き方が、幹事手づくりの「会員だより」を通して情報交換、支え合い励まし合っている。

日中戦争とともに成長し、戦中・戦後の困難期を小田原中学・高校と6年間、八幡山で鍛えられた根性を元気として、今後も活動を続けて行きたい。会員諸氏の会費も少なくなったり、近々、会費を募集したいと幹事は考えている。

小川欣一君をはじめとして、続けて8名の友人を失ったことは真に残念でならない。

平成25年5月7日 小田原高校9会同期会
じんりき シーフードバルにて

貴兄からの返信もなく、体調を崩されているのではないかと、心配しております。

今年は、23・24年入学者のなかつた東大に1名入学したと、学校関係者は大喜びしていますが、我らが同期は10名入学しております。今年も東大卒の西田寛・吉田道弘の両君が出席。企画を変え、"東大デー" (?)として、お2人に挨拶をしてもらいました。

高11活動報告 (講演会とHP)

5月19日(水) 今年と同じ会場「シーフードバル・じんりき」(小田原東口駅前)で正午、12時より開宴します。乞うご期待。

奥津和彦

次回予告
26年5月7日(水) 今年と同じ会場「シーフードバル・じんりき」(小田原東口駅前)で正午、12時より開宴します。乞うご期待。



鮭の話に聴きいる



平成25年10月19日 於:箱根湯本富士屋ホテル

て富士登山を目指すという目標をもって、簡素な生活を希望と勇気をもって実践している者もあれば、孫の野球の応援に熱を入れている者もあれば、医師・僧侶・大学の先生と現役続行中や、町内会長や各種団体の長や会社顧問、米作りや野菜づくりに精を出している者等、生き甲斐をもって社会に恩返している様子や生き方が、幹事手づくりの「会員だより」を通して情報交換、支え合い励まし合っている。

日中戦争とともに成長し、戦中・戦後の困難期を小田原中学・高校と6年間、八幡山で鍛えられた根性を元気として、今後も活動を続けて行きたい。会員諸氏の会費も少なくなったり、近々、会費を募集したいと幹事は考えている。

前略 25年度の小田高第9回同期会(櫻九会)は、ご案内の通り5月7日(火)小田原駅前「シーフードバル・じんりき」で、恩師、木村・高橋両先生を迎へ、55名参加で開催されました。

貴兄からの返信もなく、体調を崩されているのではないかと、心配しております。

今年は、23・24年入学者のなかつた東大に1名入学したと、学校関係者は大喜びしていますが、我らが同期は10名入学しております。今年も東大卒の西田寛・吉田道弘の両君が出席。企画を変え、"東大デー" (?)として、お2人に挨拶をしてもらいました。

貴兄からの連絡がないのを、「櫻九会」幹事一同、心配をしております。ご一報下さい。お願ひまで!

*鮭の仲間である、鱈・ヤマメの生い立ち等、身近な魚でありながらこんなにも知らなかつたことがあるのかと驚きの連続でした。

講師略歴

1940年 満州鞍山市に生れる。
1959年 小田原高校卒業。

1964年 東京水産大学(現東京海洋大学)卒業。

1964年~2001年 日魯漁業

(株)(現株)マルハニチロホールディングス)漁労・養殖・貿易部門に勤務。
技術士(水産部門)著書:「標津のサケ」(2006年発行)

高11期ではホームページを開いているので、どうぞご覧下さい。こちら

10月19日(土)、恒例の同期会が箱根「湯本富士屋ホテル」で開催されました。

8年前から継続している毎年開催、幹事組も一巡し今年は5組が担当、開催日を土曜日に変更して開催。出席者も82人と多く、恒例の記念撮影は隣と肩を寄せ合う混雑状況ながら和気藹々と終了。宴会はマドンナ中山(武井)裕子さん司会で黙祷・乾杯に続き、2組の田下昌人君の兄弟トリオ「田下兄弟社」による演奏からスタート、宴会は各組のテーブル

らも人生経験豊かな同期生の談論風発をお楽しみ頂けます。(http://odakoll.net/index.html)

常任幹事 今道周雄

高16同期会 今年も箱根湯本で開催

10月19日(土)、恒例の同期会が箱根「湯本富士屋ホテル」で開催されました。

*私たちが食しているサケの正体は!
*サケはどうして生まれた川に戻つて来られるのか?
*日本のサケ資源はどうやって維持されているのか?

【講演要旨】

ご存じ“オーケス・ブランザーズ”がリード。後期高齢者の蛮声が、会場に響き渡つた。2時30分、名残惜しへ散会。次回も、26年5月7日(水)同じ場所「じんりき」での再会を誓いました。

2次会の「カラオケ」は20有余名参加、大いに唄い、アンチエーディング効果を図りました。

*サケの産卵はどのようにされるのか?
*サケはどのようにされたのか?
*日本のサケ資源はどうやって維持されているのか?

お決まりの応援歌・校歌の齊唱を

”ご存じ“オーケス・ブランザーズ”がリード。後期高齢者の蛮声が、会場に響き渡つた。2時30分、名残惜しへ散会。次回も、26年5月7日(水)同じ場所「じんりき」での再会を誓いました。

2次会の「カラオケ」は20有余名参加、大いに唄い、アンチエーディング効果を図りました。

*サケの産卵はどのようにされるのか?
*サケはどのようにされたのか?
*日本のサケ資源はどうやって維持されているのか?

お決まりの応援歌・校歌の齊唱を



教室では気持ちだけ高校生に
プレイバック

となると、今年は未来がテーマ。
そこで、3月まで小田高で教鞭を
とった白石勉君に現在の高校生
の実態について講演をお願いしまし
た。勉強方法を教える合宿、毎週末
の宿題など、今の小田高生は本当に
よく勉強しているとのことです。部
活動も我々の時代とは一変し、ダン
ス部や軽音楽部の人気が高いそうで
す。参加者一同、興味深い時間を過
ごせました。

さらに今年は、同期会の活動とし
て新しい試みがスタートしました。
それは、部活動です。陸上部、落語部、
洋楽部、グルメ部、手芸部、ゴルフ
部といった部が誕生しました。實際
に、陸上部主催の練習走行会、落語
部による三師匠（高45）の落語鑑
賞と暑氣払い、洋楽部によるディッ
ブックでのグルメ情報交換、ゴルフ
コンペの開催など活発な活動を行っ
ています。

高校硬式テニス部OB会のホームページを検索してご覧下さい。

役員 白砂賢治（高17）

小田原高校ソフトテニス部 OB会活動報告

山岳部OB会活動報告

が様々な形でOB会の活動に係わっていただく述べています。

幹事長 柴田正光（高23）

13)は、スキー板を担ぎ富士山頂上直下迄登り、滑り降りることを楽しんでいます。

12月第1週に湯河原上野屋旅館で総会を開催していますが、山岳部顧問の渡辺栄一（中43）加藤克美先生にも参加いただき、それぞれの活動を発表し、鍋を囲み、賑やかに交流を計っています。

当会の活動は、昨今中心メンバーの高齢化と仕事との関係からみんなが一緒に登る合宿形式は少くなりました。活動は、計画の日程が合った者で実施され、2011年5月ペルアンデスピスコ峰（5800m）、ミステイー峰（5800m）に高橋和哉（高13）山口要之助（高14）府川宏（高24）が挑戦しました。ピスコ峰は、天候不順で頂上は踏めませんでしたが、ミステイー峰は高橋が登頂する。スケールの大きなアンデスの峰々を堪能しました。また、来年2月から3月にかけ、加藤和彦（高19）が中心となりニュージーランド世界遺産アスピアリング峰周囲のトレッキングを計画しているところです。



ペルーワラスから見るアンデスの峰々

第5回桜泳会（水泳部OB会 総会開催）

小野悦郎（高20）

25年9月7日（土）小田原市柏山の「鮎ひろ」に於いて、15名の参加を得て懇親を深めました。

総会では、星崎信幸会長（高39）の挨拶に始まり、現役水泳部のサポートや決算報告、今後のOB会活性化策等、有意義な話し合いを行いました。

また、鍵矢遥菜さん（高64）が、5月に開催されたジャパンオープントリオ泳2013において、女子50m背泳ぎで2位（世界ランク16位）になつたことと、前年度のマスターズ大会（競泳）参戦の報告があり、熱

海市（5月開催）や平塚市（11月開催）で行われるマスターズ大会へできるだけ多くのOB・OGの参加に引き続き力を入れていく方針を確認しました。

総会終了後の懇親会では、剣持悟氏（高24）をはじめ、先輩方の部活動の楽しい話や、近況などを話し、さらなる飛躍を願い、一本締めにてお開きとなりました。

来年もこの時期に総会・懇親会を開催し、マスターズ大会へも随時参加します。ぜひ、先輩・同期・後輩を誘い合って参加してください。桜泳会ホームページに詳しい活動内容が載っていますのでご覧ください。

事務局長 本多直司（高48）

サッカー部OB会

今年5月19日のホームカミングデーにあわせて、サッカー部OB会は、現役を交えた交流試合と総会を開催しました。毎年4月に総会を開催していたのですが、新しく整備されたグラウンドのことをOBに広く知つもらいたい、特に、校舎の改装工事のため小田高のグラウンドでボールを蹴ることが出来なかつた若手OBに、小田高のグラウンドで思い切りサッカーをして欲しいとの思いで、交流試合を企画しました。グラウンドの再整備にあたつては、公式戦ができる広さにするために、同窓会や運動部OB連絡会はじめ、多くの方のご支援を頂きました。あらためて感謝申

し上げます。

交流試合は、若手OBを含めて例年よりも多いOBが集まり、現役も交えた交流試合を楽しく開催することができます。1年を通じて現役でサッカーを続けている方も久しぶりにボールを蹴る方もいて、皆、高校時代に戻つたように楽しそうでした。ただ、頭の中は現役時代でも、体は確実に年齢を重ねており、思ったよう体が動かない現実に四苦八苦しんでいました。けが人が出なかつたのは幸いでした。

試合後は南館の1室を借りて、総会を開催しました。普段は見られない若手OBも総会に出席してもらい、OB会の活性化に貴重な意見が出ました。役員一同、OB会の活性化に取り組んでまいります。その後は痛い足を引きずりながら小田原駅まで下り、有志で懇親会を開催し、楽しい1日を締めくくりました。

試合後は南館の1室を借りて、総会を開催しました。普段は見られない若手OBも総会に出席してもらい、OB会の活性化に貴重な意見が出ました。役員一同、OB会の活性化に取り組んでまいります。その後は痛い足を引きずりながら小田原駅まで下り、有志で懇親会を開催し、楽しい1日を締めくくりました。

守屋輝彦（高37）



試合後の総会

寄付金・年会費納入状況(24年10月から25年9月まで)

■卒年別等寄付金納入状況

卒年	会員数	亡	不明者	有効会員数	入金人数	入金額	入金率
旧教職員	975	270	216	489	3	20,000	0.61%
中学校							
中1回～併中2回(明治34年～昭和24年)	5,613	3,985	483	1,145	20	83,000	1.75%
高等学校							
高1回～高6回(昭和23年～昭和29年)	1,732	530	140	1,062	94	334,270	8.85%
高59回～高65回(平成16年～平成25年)	1,915	1	33	1,881	3	7,000	0.16%
寄付合計	10,235	4,786	872	4,577	120	444,270	2.62%

■卒年別会費納入状況

卒年	会員数	亡	不明者	有効会員数	入金人数	入金額	入金率
高等学校							
高7回(昭和27年～30年)	412	102	27	283	82	246,000	28.98%
高8回(昭和28年～31年)	387	90	37	260	84	252,000	32.31%
高9回(昭和29年～32年)	401	81	42	278	81	246,000	29.14%
高10回(昭和30年～33年)	408	84	34	290	76	234,000	26.21%
高11回(昭和31年～34年)	389	72	23	294	73	226,000	24.83%
高12回(昭和32年～35年)	397	44	33	320	68	204,000	21.25%
高13回(昭和33年～36年)	391	36	26	329	91	276,000	27.66%
高14回(昭和34年～37年)	408	36	53	319	66	231,000	20.69%
高15回(昭和35年～38年)	379	37	52	290	51	153,000	17.59%
高16回(昭和36年～39年)	386	44	25	317	63	189,000	19.87%
高17回(昭和37年～40年)	405	35	60	310	59	180,000	19.03%
高18回(昭和38年～41年)	528	43	75	410	51	153,000	12.44%
高19回(昭和39年～42年)	472	25	61	386	57	177,000	14.77%
高20回(昭和40年～43年)	485	22	79	384	56	171,000	14.58%
高21回(昭和41年～44年)	455	32	39	384	45	135,000	11.72%
高22回(昭和42年～45年)	435	25	60	350	50	153,000	14.29%
高23回(昭和43年～46年)	439	20	54	365	36	108,000	9.86%
高24回(昭和44年～47年)	429	11	101	317	34	109,000	10.73%
高25回(昭和45年～48年)	414	10	78	326	33	99,000	10.12%
高26回(昭和46年～49年)	411	12	104	295	36	108,000	12.20%
高27回(昭和47年～50年)	407	19	61	327	37	111,000	11.31%
高28回(昭和48年～51年)	405	10	73	322	27	84,000	8.39%

卒年	会員数	亡	不明者	有効会員数	入金人数	入金額	入金率
高等学校							
高29回(昭和49年～52年)	452	10	82	360	34	102,000	8.82%
高30回(昭和50年～53年)	445	10	129	306	27	81,000	9.32%
高31回(昭和51年～54年)	445	2	121	322	30	93,000	11.31%
高32回(昭和52年～55年)	451	10	52	389	44	132,000	9.44%
高33回(昭和53年～56年)	445	8	65	372	28	84,000	7.53%
高34回(昭和54年～57年)	452	5	39	408	23	69,000	5.64%
高35回(昭和55年～58年)	455	5	101	349	25	74,880	7.16%
高36回(昭和56年～59年)	446	8	89	349	17	54,000	4.87%
高37回(昭和57年～60年)	403	4	105	294	14	42,000	4.76%
高38回(昭和58年～61年)	454	6	102	346	13	39,000	3.76%
高39回(昭和59年～62年)	465	5	126	334	16	48,000	4.79%
高40回(昭和60年～63年)	456	2	136	318	10	30,000	3.14%
高41回(昭和61年～平成元年)	469	8	72	389	12	38,000	3.08%
高42回(昭和62年～平成2年)	513	2	103	408	11	33,000	2.70%
高43回(昭和63年～平成3年)	477	2	100	375	11	33,000	2.93%
高44回(平成元年～4年)	514	3	103	408	17	51,000	4.17%
高45回(平成2年～5年)	456	3	110	343	8	24,000	2.33%
高46回(平成3年～6年)	442	2	98	342	4	12,000	1.17%
高47回(平成4年～7年)	439	2	81	356	6	18,000	1.69%
高48回(平成5年～8年)	427	2	88	337	7	21,000	2.08%
高49回(平成6年～9年)	414	0	73	341	10	33,000	2.93%
高50回(平成7年～10年)	398	3	69	326	7	21,000	2.15%
高51回(平成8年～11年)	391	1	69	321	5	15,000	1.56%
高52回(平成9年～12年)	395	1	57	337	4	12,000	1.19%
高53回(平成10年～13年)	357	0	52	305	6	18,000	1.97%
高54回(平成11年～14年)	357	1	43	313	2	6,000	0.64%
高55回(平成12年～15年)	358	0	29	329	5	15,000	1.52%
高56回(平成13年～16年)	317	0	18	299	7	21,000	2.34%
高57回(平成14年～17年)	395	2	32	361	3	12,000	0.83%
高58回(平成15年～18年)	388	0	26	362	3	9,000	0.83%
会費合計	22,119	997	3,567	17,555	1,665	5,085,880	9.48%
総合計	32,354	5,783	4,439	22,132	1,785	5,530,150	8.07%

*7回から58回までは会費の納入をお願いしている卒業回数です。その他の卒業回数の方々には、ご寄付という形で納入頂いています。

◆ 同窓会は会費で運営されています。
 この会報「八幡山」は、会員全員
 に送られています。発行部数は、約
 2万2千部になります。
 また、会費は、ホームカミングデー、
 校歌祭、校史展示室の運営、運動部
 等生徒の激励、新入会員記念品の贈
 呈など、さまざまな会の運営の源泉
 になっています。
 ◆ 納入はコンビニ・郵便局などで
 年会費 3千円
 この会報に同封されている払込票
 をもってコンビニまたは郵便局で納
 入をお願いします。
 あるいは、次の要領により、お振
 込みください。
 ★ ゆうちょ銀行を利用
 銀行名 ゆうちょ銀行(9900)
 口座番号 00240-4-63525
 口座名 神奈川県立小田原高等学校
 加入者名(カナ) カナガワケンリ
 ツオダワラコウトウガツコウドウソ
 ウカイ
 ★ ダイレクトバンキングを利用
 パソコンや携帯電話などを操作し
 て振込む方法もあります。
 この方法では銀行などの支店に行
 かなくてもよく、いつでも利用でき、
 手数料が支店利用時よりも安くなる



◆ 同窓会は会費で運営されています。
 この会報「八幡山」は、会員全員
 に送られています。発行部数は、約
 2万2千部になります。
 また、会費は、ホームカミングデー、
 校歌祭、校史展示室の運営、運動部
 等生徒の激励、新入会員記念品の贈
 呈など、さまざまな会の運営の源泉
 になっています。
 ◆ 納入はコンビニ・郵便局などで
 年会費 3千円
 この会報に同封されている払込票
 をもってコンビニまたは郵便局で納
 入をお願いします。
 あるいは、次の要領により、お振
 込みください。
 ★ ゆうちょ銀行を利用
 銀行名 ゆうちょ銀行(9900)
 口座番号 00240-4-63525
 口座名 神奈川県立小田原高等学校
 加入者名(カナ) カナガワケンリ
 ツオダワラコウトウガツコウドウソ
 ウカイ
 ★ ダイレクトバンキングを利用
 パソコンや携帯電話などを操作し
 て振込む方法もあります。
 この方法では銀行などの支店に行
 かなくてもよく、いつでも利用でき、
 手数料が支店利用時よりも安くなる

◆ なお、ご依頼人・通信欄において、
 次の例の通り、ご氏名のあとに卒業
 回数を必ず記入願います。
 小田高 太郎 高45
 オダコウ タロウ コウ45
 但し、ゆうちょダイレクトの場合、
 ご依頼人番号に卒業回数を記入願い
 ます(中学卒業生の場合は先頭に0
 (ゼロ)をつけてください)
 など の メリット が あ り ま す。

会費は同窓会活動の源泉です!

*電話やウェブサイト利用はご遠慮下さい。訃報掲載もいたしません。

私書箱15号
県立小田原高等学校
同窓会事務局

郵便事業(株)小田原支店
宛先
〒250-8691

同窓会員が、万一ご逝去されました場合は、ご親族様にはお手数となりますが葉書等の文書でご一報をお願い申し上げます。ご一報いたい場合は、会報に訃報を掲載するとともに、ご一報以降の会報のお届けを止めさせていただきます。

宛先

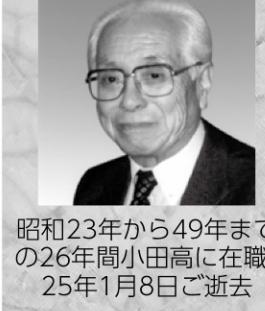
〒250-8691

ご逝去ご連絡のお願い



両毛明良先生を偲んで

力石悠一（高16）



昭和23年から49年まで
の26年間小田高に在職。
25年1月8日ご逝去

昭和36年（1961年）4月、私は高校1年。両毛先生の英語の授業は英語で始まった。何の前ぶれも無く。御歳36才、ふさふさの白髪を揺し、5分10分何を話しているのかまるで解らない。先生と目が合った瞬間、「フロッゲ？」何の意味かと問うているようだ。答えられない。「じょうがね工なア」ってな顔をして、またひたすら話し続ける。ひどいショックの中で高校生活は始まった。そして英語だけでなく、3年間クラス担任であり、所属したサッカーチームの顧問でもあった。そしてその5月、静岡の藤枝東高とのサッカー定期戦にいきなり出された。上手かつた訳ではない！偶々、小田高校庭で行なわれた中学の郡大会に出場し、他の者よりもちょっと足が速かっただけである。試合の前、先生は言った。他のことはどうでも良い、藤枝のウイニングを徹底的にマークし、仕事をさせるな！邪魔をしまくれ！と。そんなサッカー生活が始まった。そして私が2年の

暮、先生率いる我がサッカーチームは、湘南、栄光を破り、県代表で全国大会に出場した。受験のため2年で辞めるはずの3年の小川、葛野、添田、久保寺、朝倉さん達が残って、県予選を戦つてくれたおかげです。「サッカーをやっていたから希望の大学に入れない、そんな頭じゃないだろ！」先生のそんな考え方、指導が私たち掛け替えのない、50年経つても色褪ることのない経験を与えてくれました。正月に西宮（当時は全国大会は兵庫で行なわれていた）で行なわれた1回戦を突破したら宝塚歌劇を観せてやるぞ！ 残念ながら引き分け、抽選負けでお姉さん達に逢うことは無かった。県優勝旗を持つて入場行進し、仲間達と楽しみ苦しんだ全国大会は終った。

先生は1979年県立高浜高校

そして両毛先生、安らかに。

暮、先生率いる我がサッカーチームは、湘南、栄光を破り、県代表で全国大会に出場した。受験のため2年で辞めるはずの3年の小川、葛野、添田、久保寺、朝倉さん達が残って、県予選を戦つてくれたおかげです。「サッカーをやっていたから希望の大学に入れない、そんな頭じゃないだろ！」先生のそんな考え方、指導が私たち掛け替えのない、50年経つても色褪ることのない経験を与えてくれました。正月に西宮（当時は全国大会は兵庫で行なわれていた）で行なわれた1回戦を突破したら宝塚歌劇を観せてやるぞ！ 残念ながら引き分け、抽選負けでお姉さん達に逢うことは無かった。県優勝旗を持つて入場行進し、仲間達と楽しみ苦しんだ全国大会は終った。

暮、先生率いる我がサッカーチームは、湘南、栄光を破り、県代表で全国大会に出場した。受験のため2年で辞めるはずの3年の小川、葛野、添田、久保寺、朝倉さん達が残って、県予選を戦つてくれたおかげです。「サッカーをやっていたから希望の大学に入れない、そんな頭じゃないだろ！」先生のそんな考え方、指導が私たち掛け替えのない、50年経つても色褪ることのない経験を与えてくれました。正月に西宮（当時は全国大会は兵庫で行なわれていた）で行なわれた1回戦を突破したら宝塚歌劇を観せてやるぞ！ 残念ながら引き分け、抽選負けでお姉さん達に逢うことは無かった。県優勝旗を持つて入場行進し、仲間達と楽しみ苦しんだ全国大会は終った。

暮、先生率いる我がサッカーチームは、湘南、栄光を破り、県代表で全国大会に出場した。受験のため2年で辞めるはずの3年の小川、葛野、添田、久保寺、朝倉さん達が残って、県予選を戦つてくれたおかげです。「サッ



昭和36年頃右端が両毛先生



西から撮影した航空写真



平成20年頃の懇親会

同窓会に愛称を！

名づけ親になつてください

小田高同窓会に愛称をつけたいと思ひます。その名を呼べば同窓生たちが小田高を思い起こし、今も続く友情のシンボルとなるような、そんな愛称にしたいと思います。

運営委員会で検討した結果、「樺」

は小田原高校の校章ともなっているシンボルであり、地域・職域、同期会、各OB会の名称にも多く使われている

ところから、次の愛称を候補として提案させていただきます。

【候補案】

『樺友会』

26年1月31日までに同窓会あて①メール、②FAX、③私書箱、④ウエブサイト（各あて先は36頁参照）によりご意見をお寄せください。

補助金をもらつて同期会を始めよう！

同窓会が発展するためには、同期会の結束・活性化が不可欠です。そこで、同窓会では、各卒業期が新たに同期会を結成する場合には、5万円を限度として、補助金を交付しています。ぜひ、ご利用ください。

常任幹事（同期会）の複数化に協力を！

同窓会役員の常任幹事は、同期会及び地域・職域等同窓会から各1名が選任されています。役割としては、常任幹事会の構成員として総会から付託された同窓会の事業計画、予算・決算の承認などの重要な決定をしております。

同窓会は、何といっても同期会や地域・職域等同窓会の活動が原動力となっており、そのエネルギー

が同窓会に反映され、活性化しています。そこで地域・職域等同窓会は地域と同じ、職場と同じという共通の思いで、強い団結力のもと様々な活動をしております。一方で

同時に卒業生の同期会は、社会人になってからは連絡もままならないなり、卒業30年、40年を機会に久しぶりに再会する例が多いと思います。

同期会結成補助金を受けている卒回



内 容

が同期会に反映され、活性化しています。そこで地域・職域等同窓会は地域と同じ、職場と同じという共通の思いで、強い団結力のもと様々な活動をしております。一方で

同期会ウェブサイトの同期会結成補助金交付要領にしたがって、申請書をダウンロードしてお使いください。申請書および必要書類を添付して窓口私書箱宛（36頁参照）に郵送してください。

創立百周年記念史 のご案内

校舎エントランスに 同窓会コーナー誕生

母校は22年（2010）に創立百周年を迎えました。創立百周年記念事業の一環として、24年3月に創立百周年記念史『小田原高校百周年から十年の歩み』を発刊しました。B5判、縦書、2段組、316ページです。実費1,000円にて販売しておりますので、私書箱宛、ましてはウェブサイトからご注文ください。お支払い方法は書籍に同封してお送りいたします。

なお、地域・職域等同窓会につきましては、組織力があることから必須の呼びかけはいたしませんが、複数化の希望がある場合は個別に選出報告書の提出をお願いします。

選出の報告は①メール、②FAX、③私書箱あて郵送で（各あて先は36頁をご覧ください）。

（カラーページ）

序章 豊かな実りを求めて

第一章 再編統合と単位制への移行

第二章 学力向上進学重点校と教

育制度の変革

第三章 新校舎落成と

新グラウンド完成



同窓会コーナー



第四章 創立百周年記念事業	第五章 生徒会
第六章 PTA	第七章 同窓会
資料集	年表

小田原高校で始まつた新たな取組 ～グローバル人材育成プログラムの研究・開発～

教頭 鈴木秀幸（高26）

研究指定校となる

25年度の県の教育委員会E－提案制度（教育に関する先進的な取組を支援する制度）で、小田高は「国際バカロレアの趣旨を踏まえたグローバル人材の育成に向けた後期中等教育プログラムの研究・開発、Theory of Knowledge（TOK）の実践的研究を中心に」のテーマによる研究指定を受けました。

指定された背景

TOKは一般に「知識の理論」と訳されます。国際バカロレア（以下IB）は、国際的に大学の入学資格を付与する制度として注目を集めていますが、教育活動は基本的に英語やフランス語などで行われます。ところが国の「グローバル人材育成推進会議」の中間まとめによれば、今後、文部科学省は「高校卒業時に国際バカロレア資格（DP）を取得可能なうえ、文部科学省は「高校卒業時に国際バカロレア資格（DP）を取得可能なものとすることです。そして、IBの一部を日本語・フランス語を中心に行われますが、日本語DPは決して英語を教えることが主眼ではなく、世界市民の育成という教育理念をもつて行なわれます。そのため、IBの教育は英語・フランス語を中心に行なわれますが、日本語DPは決して英語を教えることが主眼ではなく、世界市民の育成という教育理念をもつて行なわれる点がポイントになります。

本校の教育目標とも合致

3年間の取り組みスタート

県教委の指定を受け、3年間の取組も良い波及効果があると考えます。

名古屋大付属高

IBを取り入れるメリットとして「個人の知識量のみを増やすような受動的学習から、協同的で探求的な学習への転換」「英語で考えアウトプットすることができる力を育成する」ことを挙げていました。名古屋大学との協働や生徒のコミュニケーション能力やスキルの確実な習得を目指していました。英語については名古屋大学の授業を活用した取組でした。

堀川高校 小田高OBの活躍

堀川高校は11年から「探求活動」を始め、14年度から文科省「スーザン・サイエンスハイスクール」の指定を受けています。堀川高校がIBを取り入れるメリットはIBの目指す10の学習者像が堀川高校の目指す生徒像と一致していることだそうですが、これは小田高にも当てはまります。IBに直結した取組ではなく学校全体として「考えさせる」授業に取り組んでいます。小田高での取組を考えとき大いに参考になる例でした。また、英語以外での英語による授業は行っているそうです。ところで、堀川高校を訪れたとき、嬉しい驚きがありました。本校の職員に対応していただいた堀川高校の責任者が小田高のOBの方だったのです。小田高卒業後、関西方面の大学に進まれた方で現在、堀川高校で研究の中心として活躍されていました。今後も小田高の取組に支援をいただけるそうです。

世界共通の高校卒業資格 国際バカロレア（IB）とは？

国際バカロレア資格（IB Diploma）は、ジュネーブに本部を置く教育団体「国際バカロレア機関：International Baccalaureate Organization (IBO)」が提供している3つのプログラムのうち、16歳から19歳の生徒を対象にした2年間のディプロマコースです。世界共通のアカデミック資格として知られており、修了時にディプロマコースの卒業試験（毎年5月又は11月に実施）に合格すれば、資格を取得できます。国際バカロレア資格の評価は国際的にも非常に高く、日本を含む世界125カ国以上の大学が入学資格として認めています。

このからの小田高のバカロレア以上のような他校訪問の取組を踏まえて、「生徒の英語によるプレゼンテーション能力を始め、物事について、多面的・多角的に捉え、理論的に思考し、表現する能力の育成を図

時間」のテーマ学習で、TOKを踏まえた研究プログラムの実施・評価を行います。そして27年度には、数学・理科等の授業における英語を用いた課題・実験を行う予定です。また、英語の授業では生徒が英語で討論する力の育成、「総合的な学習時間」のテーマ学習で、TOKを踏まえた研究プログラムの実施・評価を行います。そして27年度には、数学・理科等の授業における英語によるプレゼンテーション、「総合的な学習時間」のテーマ学習でTOKを踏まえた研究プログラムの深化を図ります。

この取組を通して、本校の特色を大きく伸ばしてまいります。今後の小田高の取組に注目ください。

る」をテーマとした研究をスタートさせます。具体的な研究手法として「①IBの趣旨を踏まえた組織的な授業改善、②TOKを中心とした「総合的な学習の時間」における研究・発表プログラムの開発、③「外国語」「数学」「理科」等における英語による授業実践・検証の3手法を開拓していくきます。また、25年度は、外国語（英語）と「総合的な学習の時間」における授業づくりについて研究し、試行的に実施していきます。26年度は、数学・理科等の授業における英語を用いた課題・実験を行う予定です。また、英語の授業では生徒が英語で討論する力の育成、「総合的な学習時間」のテーマ学習で、TOKを踏まえた研究プログラムの実施・評価を行います。そして27年度には、数学・理科等の授業における英語によるプレゼンテーション、「総合的な学習時間」のテーマ学習でTOKを踏まえた研究プログラムの深化を図ります。

にとつて一大イベントである小田高祭が行われました
6月8日(土)、9日(日)の2日間、今年も生徒

文化祭はいつやるの?
今でしょ!



視聴覚教室の壇上を利用し、右手を右上から左下に振り下ろして校歌を斉唱
(在校生と応援団OB会員とで8月に2度練習)

OBと現役の交流試合
水分補給して、OBには負けないぞ
(OHCD)



在校生と同窓会

中学からの進学状況(平成25年4月)

(1) 出身中学校別入学者数

学年		1年	2年	3年	合計
出身中学					
小田原市	白山	17	8	15	40
	泉州	13	14	12	39
	酒匂	18	13	12	43
	鴨宮	9	12	14	35
	千代	8	18	10	36
	白鷗	2	5	4	11
	城北	6	7	10	23
	城山	10	16	9	35
	橋	5	4	7	16
	城南	4	6	3	13
	国府津	1	10	0	11
南足柄市	岡本	12	6	16	34
	足柄台	9	9	14	32
	南足柄	5	8	15	28
足柄上郡	大井町	湘光	6	14	10
	山北町	5	6	4	15
	清瀬市	0	2	2	4
	開成町	文命	12	14	9
	松田町	4	6	3	13
	寄	1	0	3	4
	中井町	中井	5	1	1
足柄下郡	湯河原町	湯河原	6	5	13
	真鶴町	真鶴	2	3	5
	箱根町	箱根	3	0	0
	函嶺白百合	0	1	0	1
秦野市	本町	3	8	14	25
	東	6	0	2	8
	西	13	6	11	30
	南	11	6	5	22
	北	2	1	2	5
	渋沢	12	4	5	21
	南ヶ丘	11	7	5	23
	大根	4	7	4	15
	鶴巻	9	5	3	17
	伊勢原	5	1	3	9
伊勢原市	山王	1	2	6	9
	中沢	3	4	1	8
	成瀬	5	8	6	19
	二宮町	二宮	13	12	8
中郡	二宮町	二宮西	4	6	9
					19

学年		1年	2年	3年	合計
出身中学					
平塚市	国府	4	6	5	15
	大磯町	7	4	4	15
	浜岳	5	9	6	20
	旭陵	0	1	2	3
	中原	2	1	1	4
	江陽	0	1	0	1
	山城	0	0	2	2
	大野	0	1	1	2
	春日野	0	2	2	4
	大洋	2	1	3	6
	大住	1	0	2	3
茅ヶ崎市	金旭	1	2	3	6
	神明	0	1	0	1
	金目	1	0	3	4
	浜須賀	2	1	0	3
	円蔵	1	0	0	1
	梅田	1	0	0	1
	萩園	1	0	0	1
藤沢市	第一	4	2	0	6
	鶴嶺	2	3	0	5
	中島	1	0	1	2
	西浜	1	0	2	3
	松浪	0	0	1	1
	松林	1	2	0	3
	赤羽根	1	0	0	1
鎌倉市	鶴が台	1	0	0	1
	高浜	0	1	0	1
	村岡	0	1	0	1
	第一	0	0	2	2
	明治	1	5	0	6
厚木市	鵠沼	3	0	0	3
	大附属鎌倉	1	1	0	2
	厚木	1	1	0	2
	南毛利	1	0	1	2
	玉川	1	0	1	2
海老名市	森の里	1	2	1	4
	東名	1	0	0	1
	小鮎	1	1	0	2
	海老名	2	1	0	3
	海西	0	0	1	1

学年		1年	2年	3年	合計
出身中学					
大谷	0	1	0	1	1
海老名市	有馬	0	1	0	1
座間市	栗原	0	0	1	1
綾瀬市	綾北	0	1	0	1
川崎市	今井	1	0	0	1
横浜市	瀬谷	0	0	1	1
熱海市	熱海	1	0	0	1
	泉	1	0	0	1
	多賀	2	0	0	2
その他		0	1	0	1
合計		322	319	321	962

(2) 居住地別入学者数

学年		1年	2年	3年	合計
居住地					
小田原市		97	114	97	308
南足柄市		27	23	45	95
足柄上郡	大井町	6	13	10	29
	山北町	6	8	6	20
	開成町	11	14	9	34
	松田町	4	6	7	17
	中井町	5	1	1	7
	湯河原町	6	7	12	25
	箱根町	3	1	0	4
真鶴町		2	2	5	9
秦野市		71	44	52	167
伊勢原市		14	15	16	45
中郡	二宮町	17	18	17	52
	大磯町	11	9	10	30
	平塚市	12	19	24	55
	茅ヶ崎市	16	8	2	26
藤沢市		5	8	2	15
横浜市		0	0	1	1
海老名市		2	4	1	7
綾瀬市		0	1	0	1
厚木市		6	4	3	13
座間市		0	0	1	1
熱海市		1	0	0	1
合計		322	319	321	962



小田高祭歡迎アーチ風景

		年別		平成25年3月	平成24年3月	
		大学名	年別	平成25年3月	平成24年3月	
国 立	旭川医科大学	1	1			
	帯広畜産大学	0	1			
	北海道大学	6(2)	5(3)			
	岩手大学	0	1			
	東北大	7(1)	6(1)			
	筑波大学	2	3(1)			
	埼玉大学	1	1			
	千葉大学	2(2)	2(1)			
	お茶の水女子大学	0	3			
	電気通信大学	2(1)	1			
	東京大学	1(1)	0			
	東京医科歯科大学	1	0			
	東京外国语大学	1	0			
	東京海洋大学	0	1(1)			
	東京芸術大学	0	6(2)			
	東京工業大学	6	3			
	東京農工大学	5(1)	5			
	一橋大学	1	3(1)			
私 立	横浜国立大学	15(1)	16(2)			
	新潟大学	1(1)	1(1)			
	金沢大学	1	0			
	山梨大学	2(1)	2(1)			
	信州大学	3(2)	4			
	岐阜大学	0	1			
	静岡大学	6(2)	5(2)			
	浜松医科大学	1(1)	0			
	名古屋大学	2(1)	2			
	大阪大学	2	3			
	神戸大学	0	1			
	奈良教育大学	1(1)	0			
	奈良女子大学	1	1			
	島根大学	1	0			
	香川大学	1	0			
	宮崎大学	1(1)	0			
公 立	札幌医科大学	0	1(1)			
	国際教養大学	2	1			
	秋田県立大学	1	0			
	埼玉県立大学	0	1			
	首都大学東京	18(3)	12(3)			
	県立保健福祉大学	3	2			
	横浜市立大学	9(3)	12(2)			
	都留文化大学	0	1			
	静岡県立大学	1	2			
	愛知大学	1	0			
私 立	青山学院大学	38(4)	45(10)			
	麻布大学	1	1(1)			
	亜細亜大学	0	2(1)			
	大阪芸術大学	1	0			
	大妻女子大学	1	1			
	桜美林大学	4	8			
	学習院大学	14(2)	9(3)			
	学習院女子大学	1(1)	1			
	中央大学	58(6)	67(24)			
	津田塾大学	0	1			
	帝京大学	1	4(2)			
	帝京平成大学	0	1(1)			
	東海大学	15(1)	21(6)			
	東京家政学院大学	2	0			
	東京家政大学	2	1			
	東京工科大学	5(2)	0			
	東京工芸大学	3	1			
	国 立 大 学	74(19)	78(16)			
	公 立 大 学	34(6)	32(16)			
	私 立 大 学	857(150)	976(221)			

※() 内はそのうち過年度の卒業生

た。テーマは「百花繚乱 いつ咲くの? 今でしょ!」です。
 今年の小田高祭では11の部門を設定し、アンケートによる投票がありました。

文化部の発表は素晴らしく、各部、委員会の発表、展示には在校生のほか多くの方々が参加されました。そして今年から図書委員会による古本販売も行われ、大盛況がありました。結果は、物理部は展示部門で1位、ダンス部はステージ部門で1位がありました。折り鶴壁画、ちぎり絵、オブジェの中から選ぶことになりました。世界の名作をテーマに各クラス工夫を凝らした作品が出来ました。折り鶴1クラス、ちぎり絵5クラス、オブジェ3クラスの中から1位に選ばれたのは、1年5組の「真珠の耳飾りの少女」(ヨハネス・フェルメール作)でした。

また看板・垂れ幕部門では3年6組の「オレンジデイズ」、Tシャツ部門ではダンス部がそれぞれ1位になりました。

そして演劇部門では、2年4組の「家政婦のテッド」、3年7組の「シックス・センス」がそれぞれ1位になり、小田高祭最高の賞である、小田高祭大賞の栄冠も手に入れました。

文化部、委員会、各クラス、それぞれの思いを込めて作りあげた小田高祭は今年も盛況のうちに幕を閉じました。

例年以上に盛り上がった

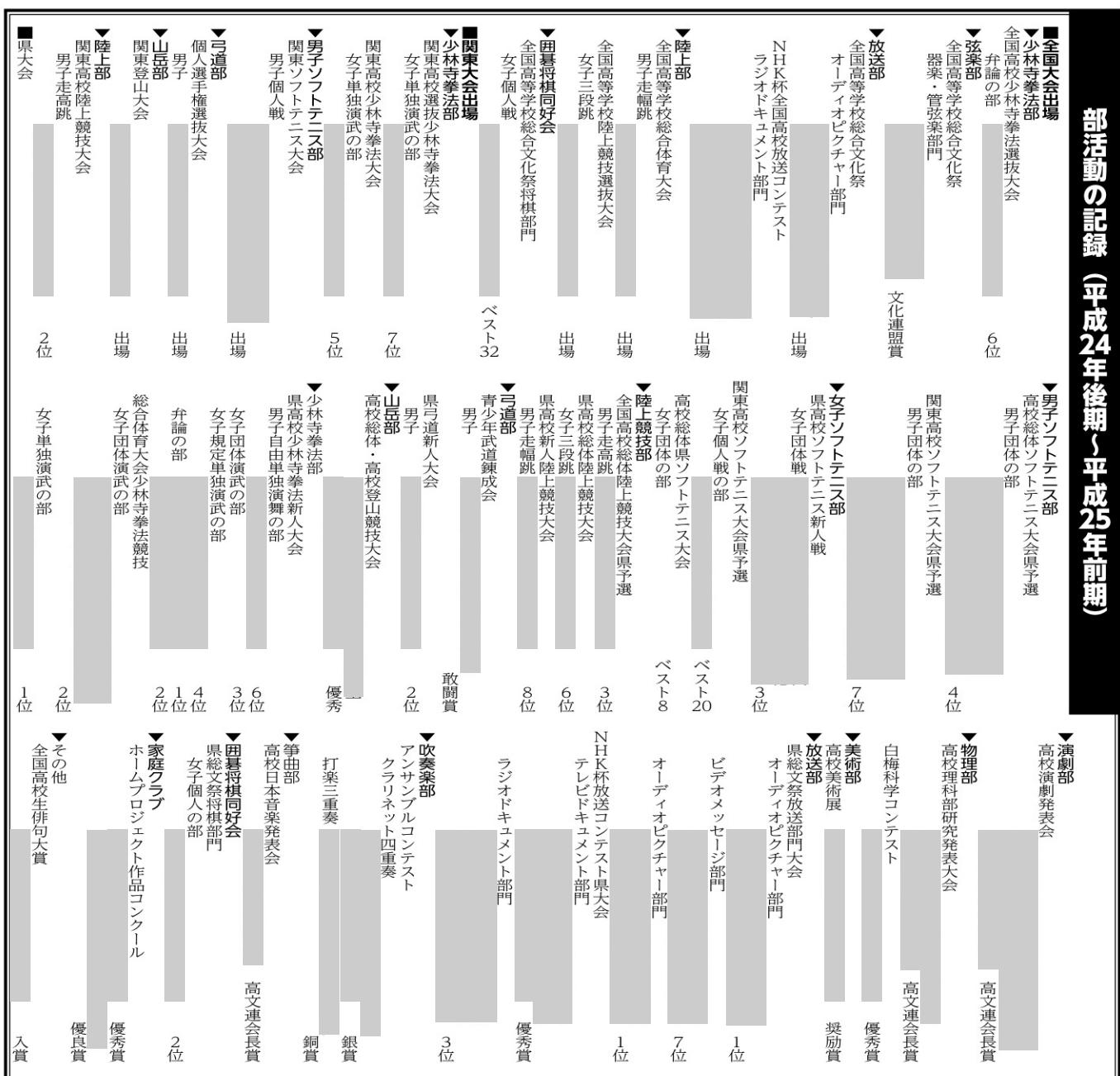
9月4日（水）の体育祭予行練習で、今年の体育祭は何かが違うと感じました。それは開始1時間ほど経った時に訪れました。突然の雨なので、予行を途中で切り上げなければならなくなっていました。

そして本番当日の6日（金）、快晴の中無事行うことが出来ました。今年は、復活した種目「槍取り合戦」「騎馬戦」が特に盛り上がり、熱戦を繰り広げていました。また、混合リレーでは手に汗握る勝負でありました。そして一番盛り上がったのは応援合戦であります。一糸乱れず、見る者を虜にするようなダンスに今年も酔いしれることができました。どの緑団でも本当に素晴らしい感動を感じました。優勝したのは緑団でありましたがどの団が優勝してもおかしくありませんでした。

ちなみにTシャツ部門は黒団、横断幕は桃団がそれぞれ1位になりました。また、競技総合では1位が黒団、2位が白団、3位が緑団がありました。



各色団旗集結。どの団が優勝してもおかしくなかった



至誠無息
堅忍不拔



創立明治33年(1900)
開校明治34年(1901)
神奈川県第二中学校



タイトルイラスト：磯谷優希さん（2年）

第25号

神奈川県立小田原高等学校
同窓会連絡先

お城越え 二の丸から 山上に春一番

電話・FAX 0465-20-3281

メールアドレス

kenyukai@odako.org

私書箱 〒250-8691

郵便事業㈱ 小田原支店

私書箱15号

県立小田原高等学校同窓会

WEBサイト <http://odako.org/>



小田原高校同窓会ウェブサイトを
ご活用ください

小田原高校同窓会

検索



◀携帯から住所変更等を
連絡できます

メールは kenyukai@odako.org

同期会、地域・職域同窓会、部OB会などの開催案内をウェブ
サイトに掲載し、広く参加を呼びかけることができます。

ホームカミングデーの開催の様子をはじめ、同窓会の活動や
小田高の写真をご覧になれます。

住所変更をウェブサイトから同窓会に連絡したり、同窓会に
各種問い合わせをすることができます。

「八幡山」の原稿も募集中です。会費納入もお忘れなく!!